

生物多様性情報整備事業

(1) 事業の概要

- ・ 社会情勢の変化や温暖化等の影響を受け、生息状況の変化が予想される野生動植物種の分布状況等を把握し、過去の自然環境保全基礎調査の結果と比較することにより、我が国の生物多様性の動向を明らかにする。
- ・ 生物多様性センターに収蔵されている各種調査報告書、文献及び生物標本情報（約 6 万点）の電子化・データベース登録作業を行い、成果物の効率的な管理を実施するほか、英文ホームページの更新充実を図る。

(2) 事業計画

- 平成 2 1 年度
- ・ 野生動植物種（外来種も含む）の分布把握調査
 - ・ 特定哺乳類（シカ・イノシシ等）の生息動向把握調査
 - ・ 生物多様性調査情報のとりまとめ及び評価
 - ・ 生物多様性センター既存資料の電子化・データベース登録、英文ホームページの作成

(3) 事業実施主体 民間団体

(4) 予算額 6 9 7 百万円

生物多様性情報整備事業

COP10における我が国の生物多様性総合評価のために、基礎情報の提供が不可欠



特定哺乳類の生息動向把握調査

・甚大な生態系被害及び農林業被害を発生させている特定哺乳類(クマ類・シカ・イノシシ・サル)について、全国的な分布調査及び生態情報の把握・整理を実施。

野生動植物種の分布調査

・生態系の中で重要な機能を果たし、生物多様性の変化の指標となる野生動植物種の全国的な分布の動向や生態の把握・整理を行う。
・過去に行った重要な植物群落等のフォローアップ調査も実施。

我が国の生物多様性調査情報のとりまとめ及び評価

生物多様性センター既存資料の電子化・データベース登録

・各種報告書及び生物標本(約6万点)の電子化及びGBIF登録作業を行い、成果物の効率的な管理を実施する。また、英文ホームページの更新、充実を図る。

2010年の生物多様性条約第10回締約国会議(COP10、名古屋)において、我が国の生物多様性保全の取り組み状況に関する評価情報として活用。